

④低血糖の症状にご注意ください

低血糖とは、血液中の糖分が少なくなりすぎた状態です。進行すると意識を失うこともあるため、症状があらわれたら早めに対処する必要があります。

主な症状 (低血糖症状には個人差があります)

- 手足のふるえ
- 冷や汗
- 顔が青白い
- 動悸
- 疲れやすい
- 不安感 など



症状があらわれた場合

- 糖質を含む食品や砂糖をすぐにとってください。(ブドウ糖や砂糖を多く含む飲み物など)
 - α -グルコシダーゼ阻害剤(アカルボース、ボグリボース、ミグリトールなど)を併用している場合は、砂糖ではなくブドウ糖をとってください。
- ⇒回復がみられない場合は、早急に担当医師に相談してください。

自分で対応ができない場合に備え、低血糖についての注意事項を、ご家族や周りの方にも伝えてください。

医療機関名

ダパグリフロジン錠「サワイ」を 服用される方へ

ダパグリフロジン錠「サワイ」は、2型糖尿病のお薬です。

このお薬は、腎臓に作用して、余分な糖を尿と一緒に排泄することで血糖値を下げる効果が期待されます。

お薬の飲み方について

1日1回、毎日決まった時間に飲みましょう。

- このお薬は、食事に関係なくいつでも飲むことができます。
- 担当医師の指示がある場合は、それに従ってください。

飲み忘れた場合、2回分(2日分)を一度に飲まないでください。

- 飲み忘れに気付いたときに、次の服用時間まで半日以上ある場合は、できるだけ早く1回分を飲んでください。
- 次の服用時間まで半日未満の場合は、1回とばして、次の通常の服用時間に1回分を飲んでください。
- あやまって多く飲んでしまった場合は、担当医師または薬剤師に相談してください。

次のような症状がある場合は、次の服用の前に、ただちに担当医師に連絡し、指示に従ってください。

- 熱がある
- 下痢・おう吐などがある
- 食欲がない、食事が十分にとれない

注意していただくこと

①脱水症状にご注意ください

このお薬は、**血糖値が高いほど**糖を尿中に多く排泄させるため、**尿量が増え**、脱水症状があらわれることがあります。

主な症状

- のどが^{かわ}渴く
- めまいがする
- 疲れやすい
- 食欲がない
- など



水分補給時の注意点

脱水予防のため、のどの渴きを感じなくても、このお薬の服用中は**こまめに水分補給**をしてください。**ご自身の判断で水分補給を控えないでください。**

- アルコールを摂取しても、水分の補給にはなりません。
- 糖分を含む清涼飲料水での水分補給は、血糖マネジメントの悪化につながるため避けてください。

特に注意が必要な方

- 血糖マネジメントが極めて悪い方
- 高齢の方
- 認知症などで、飲水・食事などの介助が必要な方
- 利尿剤を服用している方
- 腎機能が低下している方
(水分バランスを保つ機能が低下していることがあるため、担当医師の指示に従ってください)
- 心不全の方
(水分をとりすぎると心不全が悪化することがあるため、担当医師の指示に従ってください)
- 飲酒される方
- 暑い中で作業される方

特に注意が必要なとき

- 体調がすぐれないとき
- 食事や飲み物がとれないとき

②尿路の感染症および性器の感染症にご注意ください

このお薬の服用中は、尿中に糖が排泄されるため、尿路や性器の感染症が起こりやすくなります。日ごろから、トイレを我慢しないようにしましょう。また、排便・排尿の後には、清潔を保つようにしましょう。

主な症状

- 排尿時の痛み・灼熱感
- トイレが近くなる
- 陰部のかゆみ・痛み
- など

女性の場合

- おりもののにおいが強くなる、色が変わる
- など



次の症状を伴う場合は、**早急に医療機関を受診してください。**

- 寒気、発熱
- わき腹・背中の痛み
- 関節・筋肉の痛み
- 陰部の圧痛・赤み・はれなどがあり、高熱を伴う
- など

尿路感染症や性器感染症の治療が遅れると、**腎盂腎炎**、**会陰部の壊死性筋膜炎**(フルニエ^{えいそ}壊^{はいけつしやう}疽)、**敗血症** ^{えいし} ^{せいきんまくえん} といった重篤な感染症に至ることがあります。

③ケトアシドーシスにご注意ください

このお薬の作用により体内のケトン体が増加し、ケトアシドーシスに至ることがあります。**このお薬の服用中は、高血糖でなくてもケトアシドーシスが起こることがあります。**

主な症状

- 吐き気、おう吐、食欲がない
- 腹痛
- 激しいのど^{かわ}の渴き
- 体がだるい
- 息切れ
- 意識がもうろうとする
- など



症状があらわれた場合

早急に医療機関を受診し、ケトン体を測定してもらってください。

特に注意が必要なとき

- インスリンを打ち忘れたとき、減量・中止したとき
- 過度な糖質摂取制限(低炭水化物ダイエットなど)を行っているとき
- 飲酒したとき
- 過度な運動をしたとき
- 発熱や下痢・おう吐などがあり、食事がとれないとき